



うまく立ち木を切れるかな（みささ青空体験塾）

自然の中で冒険心を育む“みささっ子”

## ～ NPO 法人 里山地域研究会（三朝町）～

## 山遊びを子どもたちにも

NPO法人 里山地域研究会は、大人たちの山遊びがきっかけではじまりました。「三朝町や倉吉市に暮らす有志で山を買い、山菜を採って天ぷらにして食わあいやちゅう、その程度だったんですわ。ただの楽しみで」と、発起人の一人、山田道治<sup>やまだ みちはる</sup>さんは言います。あるとき大人たちの山遊びを見た小学校の先生から、子どもたちにも同じような体験をさせたいと声がかかります。「それじゃあ、子どもたちを預かるか」と、山田さんたちが引き受け、子どもたちを対象にした山遊びがスタートしました。NPO法人として立ち上げたのは平成22年の冬。現在は三朝町在住の有志、約20名が集まります。

## 自然を「体感」、「体験」

活動は大きくは2つ。年に一度の「みどりの体感

塾」と、月に一度の「みささ青空体験塾」です。「みどりの体感塾」は毎年10月に開塾。この体感塾は、

今回、取材したみなさん



左から、NPO 法人 里山地域研究会理事長の小椋千秋さん、みささ青空体験塾塾長の吉田定夫さん、事務局長の山田道治さん、メンバーの山田敏子<sup>のりこ</sup>さん

自然環境を保全することの大変さや素晴らしさを「体感」する授業として、活動をはじめた当時から続いています。講師は、“漁師のおっちゃん”と呼ばれ親しまれている中前雄一郎さん。<sup>なかまえゆういちろう</sup>となりの湯梨浜町から招き、三朝小学校5年生が山と川、海のつながりについて学びます。学んだあとは山へ。みんなで植樹をします。鳥取県中部森林組合、社会福祉協議会の職員なども加わり、総勢70名ほどが参加します。



山で植林について学ぶ子どもたち（みどりの体感塾）



## 年に12回！みささ青空体験塾

四季をとおして自然を「体験」する「みささ青空体験塾」は、月に一度、土曜日に開塾。田植え、ヤギとのふれあい、雪遊びなど、月ごとに子どもたちのワクワクを刺激する体験メニューが並びます。どのメニューも、メンバーの力を存分に活かしたプログラムです。中には、近隣の達人を招いて行う活動も。声をかけると、ヤギを育てる達人、竹明かりイベントの達人たちが奮って参加してくれます。

4年ほど前からは保護者も一緒に楽しむようになりました。子どもにも保護者にも人気があるのは雪遊び。公共牧場の鳥取放牧場<sup>たわらぼくや</sup>俵原牧野を借りて遊びます。「スキー場もいいんだけども、自然に近い山の中で遊ぶのが一番」と、塾長の吉田定夫さん<sup>よしださだお</sup>。

住民が少なくなった俵原地区も公民館を開放して全面協力で塾生をむかえています。「こんなところで滑らせて大丈夫ですか、危なくないですか」と心配する保護者に「子どもと一緒に滑らないや」と促すと、最後には保護者も子どもと大はしゃぎで滑ります。

## 子どもたちや家庭にも変化が

「目指しとるのは、子どもだけを預かって遊ばせるのではなく、保護者も引っ張り出して一緒に楽しむ塾」と、理事長の小椋千秋さん<sup>おぐらちあき</sup>。「子どもが体験したことを家に帰ってからやりたくても、大人が遊び方を知らんのです」と、吉田さん。大人が体験すれば、家でも子どもに教えることができると考えました。「子どもたちは楽しかったら覚えとりますからね。自分たちが大人になったとき、子どもにもさせたいと思える体験をしてほしい」と、続けます。保護者からは、「親子の会話が増えた」、「子どもが積極的に手伝いをしてくれるようになった」との声が聞かれるように。「ぼくらは後ろから見ていくくらいでいい。思いっきり楽しんでほしい」と、小椋さん。塾生の変化を見守ります。



限界集落に塾生の声がひびく（俵原地区）

## たくましく生き抜く力を身につけてほしい

「川遊びをするときは、子どもを川ん中に、ぐーんと投げてやりたいんだけどね。気持ちを抑えます」と、小椋さんはもどかしそうに言います。

### VOICE

#### 三朝町教育委員会 村岡さんのお話

2つの塾のうち、「みささ青空体験塾」は、三朝町教育委員会の事業としてNPO法人里山地域研究会に委託しています。中身は原則おまかせ。どんなアイデアが出てくるのか、いつも楽しみです。活動は子どものみならず保護者の方や町民のみなさんからも大好評。大事にしたのは、地域の子どもの地域で大人が育むこと。地元の

大学生にも関わってもらいたいと考え、当教育委員会から鳥取看護大学、鳥取短期大学へ声を掛けました。そうしたところ、同大学から多くの学生ボランティアが参加してくれるようになりました。ボランティアにも関わってもらい、子どもも大人も一緒に、みんなで楽しめる場にできたらと思います。

「やっぱり冒険心がないとね、遊びの中に」と吉田さんもうなずきます。体験塾では生えている木や竹を切ります。手加減をしています、ナイフやナタの使い方をもっと教えたいと思うことも。「昔は、家の手伝いをするのが自然と遊ぶ機会となっていました。今の子どもは塾やクラブで忙しい」と、吉田さん。ふる里の山や川で、たくましく生き抜く力を身につけてほしいと考えます。

## みんなの力で育む

毎月の事前準備は、竹の伐採や雪かきなど重労働になることも。それでも活動をつづけるのは、「ああ、おもしろかった」の声が聞きたくて。「メンバーは70代が中心です。ぼくらは、もう後期高齢者。ですが昨年、24才の方が加わりました。子どもたちと関わりたいとフェイスブックを見てくれて」と、山田さんの声がはずみます。また、吉田さんたちが声をかけ、鳥取大学からも学生ボランティアが来る



子どもも大人も力を合わせて竹切りに挑戦

ようになりました。「ぼくらは、いつまでも第一線ではできません。いろんな人をちょっとずつ巻き込んでいきたい」と、小椋さんは未来を見えます。三朝を愛する“みささっ子”は、こうして、みんなの力を持ち寄って育まれています。



活動のあとは必ず野外で  
カレーライス！



10月の稲刈り。  
“はでかけ”で天日干し



7月には滝や川で遊びました

どんなことをしているの？  
**みささ青空体験塾**



学生ボランティアも大活躍



3月の開塾式でそば打ちをしました



活動の様子はフェイスブックをチェック！

問合せ先

**NPO法人 里山地域研究会**

〒682-0152 東伯郡三朝町本泉358番地10  
NPO 法人 里山地域研究会事務局

